

感染症を断つ！

校長 松本 雅史

長かった夏休みも終わり、2学期が始まりました。

7月23日に開幕したオリンピックから引き継いで、パラリンピックの熱戦の様子が、日々私達に勇気と希望を与え続けてくれています。

さて、夏休みの始まり頃から、新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。2学期の始まりとともに、学校で感染を広げてしまうのではないかという心配の声が多いのも事実ですし、私も心配でなりません。大切なみんなの健康、ご家族の健康、そして教職員の健康が、いつおびやかされてもおかしくない状況です。

こうした状況だからこそ、この困難をみんなで気持ちを一つにして乗り越えていきたいと思います。そのために大切なことを2学期の始めに当たり3点確認したいと思います。

一つ目は、「決して無理をしない」ということです。熱があつたり、少しでも体調がおかしかつたりしたら、無理をしないで休んで体調を整えてください。ご家族に体調が優れない方が出た時も、自分が元気でも休んで様子を見るようにしてください。

二つ目は、学校での生活です。自分が感染しないというだけでなく、自分は症状が出ていないだけで、もしかしたら感染しているかもしれないという気持ちを常にもって欲しいと思います。だれかにふざけて抱きついてしまった。その夜、発熱した。抱きつかれた子は、それから数日して発熱した。抱きついたときは元気だったけれど、その時自分はすでに感染していたんだ・・・自分の不注意で、友達にうつしてしまった。ごめんね。まさか自分がうつっていたなんて思ってもみなかつたんだよ。こうした悲しいことが起きないようにするには、一人一人の意識が大切です。

具体的には今後も3つのことを守って欲しいと思います。

- ①マスクの着用・・・食事と体育での主運動以外では、きちんとマスクを着用します。マスクを外す時は、決して話はしません。登下校で、暑い時はマスクを外すと思いますが、そうしたら話はしませ

ん。

②手洗い・消毒・・・ウイルスがついた手で顔を触ることが危険といわれています。手を常に消毒することで、自分への感染を防ぎます。手すりなどみんなが触るものを触った後、手をしっかり洗ったり消毒したりすることを徹底します。

③大声の禁止・・・一番飛沫が心配なのは、大声です。教室での大声はもちろん禁止です。多くの人が共有する、廊下、階段でも静かに落ち着いて過ごします。もちろん、友達に抱きつくなどはしません。

三つ目は、かかってしまった人が出てしまったら、みんなで心の中で回復を応援しようということです。ここまで感染が広がると、いつ誰がかかってもおかしくありません。知らないうちにうつしたり、うつされたりということが起こってくるでしょう。そうした情報が、保護者同士、子ども達同士の SNS などのネットワークで、事実と思惑とがごちゃ混ぜになって噂話として広がるのが心配です。そうしたやりとりの中で、コロナにかかってしまった人を深く傷つけるような事態になることがあるからです。コロナの恐ろしさは、病気そのもののだけでなく、かかることで仲間や社会から責められたりはじかれたりするかもしれないという恐怖感にあるといいます。それは、病気が治ったあとも、見えない傷となって深く残ります。五小では、かかってしまった友達やご家庭に対しては、一日も早い回復を応援する思いやりをもっていきたいと思います。かかってほしくはないけれど、万が一かかってしまっても、みんなは自分を応援してくれているという安心感の中で治療や療養に専念できる五小でありたいと思います。

まずは9月の一ヶ月、マスク着用、こまめな手洗い、大声禁止をしっかりと守り、お互いを思いやる優しさで、静かに生活し、コロナを五小から撃退してまいりましょう。

これで、2学期始業式の話が終わります。